

3月27日 名古屋港管理組合議会 3月定例会 高橋ゆうすけ議員

新舞子マリンパークの風力発電機1基が故障・撤去 名古屋港での再生可能エネルギーの展望を

名古屋港管理組合議会の3月定例会が3月27日に行われ、高橋ゆうすけ議員が名古屋港における再生エネルギー問題について質問を行いました。

デンマーク製機器の修理費が高額

名古屋港管理組合は、温室効果ガスの削減を目的に、2005年2月から新舞子マリンパークにおいて、2機の風力発電の供用を始めました。管理組合の売電事業として毎年一定の収入を得ていた風力発電ですが、昨年1月、2号機においてギアボックスが故障して以降、現在1年以上発電を停止、補修もされていないまま、新年度予算で撤去されることになりました。高橋議員は耐用年数20年のものを13年で撤去することになった経緯などをたどりました。建設部長は「昨年1月に議やボックスの故障で運転停止した。デンマーク製の機器調達等で多額の費用が掛かるため、撤去することにした。供用



本会議で質問する高橋議員と新舞子マリンパーク風力発電所（HPより）



開始当初は、2基で一般家庭500世帯分の年間230万Kwhの発電量であった」と説明しました。

今後の温暖化防止に向けた方針を持って

跡地利用について、高橋議員は「これまでの運用を通して明らかになったことをきちんと検証したうえで、再度の風力発電整備、もしくは他の再生可能エネルギーへの転換など、色々と考えられるが、管理組合としてはどのように考えているのか」とたどりました。企画調整室長は「技術の進歩で事業採算が展望できるようになった場合や民間事業者が風力発電事業に取り組む意向が示された場合は、改めて検討する。また、名古屋港内には誘致したソーラーパーク新舞子などのメガソーラーが立地している。引き続き、稼働中の風力発電所1号機や太陽光発電を通じて環境啓発に努める」と答えました。高橋議員は「海を生かした再生可能エネルギーを跡地で研究機関と連携した研究することも含め、温室効果ガスを減らすために、何ができるか、方向性を明確に持つべきだ」指摘しました。

新舞子マリンパーク風力発電所



2018年3月 名古屋港管理組合議会 議案一覧 (3月29日採決 2016決算は27日採決)

議案名	名古屋市会選出				県議会選出			結果	
	共	自	民	公	減	自	民		公
2017年度名古屋港管理組合一般会計予算 (270億円、県市負担金79億円。過大な大水深パースの整備にむけ利用めどもなく土地交換を進めるなどの予算)	●	○	○	○	○	○	○	○	可決
その他の3会計予算 (基金4億円、施設運営70億円、埋立38億円)	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
飛島ふ頭南コンテナターミナルを拡大するための、湾整備事業の設置等に関する条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
給与条例の改正 (平均改定率0.09%、期末手当年0.1増の4.4月。退職手当調整率87%→83.7%)	●	○	○	○	○	○	○	○	可決
副管理者の選任 (愛知県副知事 石原君雄)	●	○	○	○	○	○	○	○	可決
2017年度補正予算2件 (一般会計2億円、埋立事業特別会計900万円)	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
2016年度名古屋港管理組合一般会計決算	●	○	○	○	○	○	○	○	可決
その他3会計決算 (基金、施設運営、埋立)	○	○	○	○	○	○	○	○	可決

○=賛成 ●=反対 / 共：日本共産党 自：自民党 民：民主党 公：公明党 減：減税日本ナゴヤ